

愛荘町全国学力・学習状況 調査 調査結果から見る本町の子ども姿

調査の目的

本調査は、個人の評価ではなく、教育の成果と課題を多面的に把握・分析し、指導や施策の改善に生かすことを目的に実施されています。

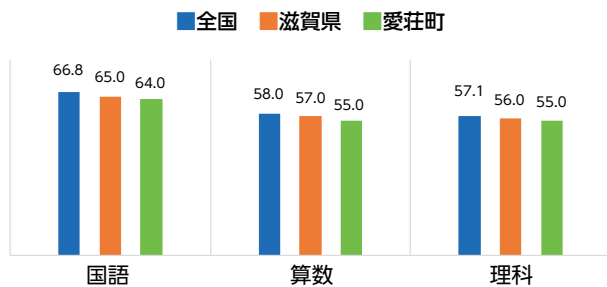
本調査で測れるのは学力の一部であり、学校教育全体を示すものではありませんが、調査結果を検証し、子どもたちのより良い学びの実現に向けて、家庭や地域と連携して教育の改善に取り組んでまいります。

学力による調査結果より

令和7年度より、教科に関する調査にオンライン方式(CBT)が導入されました。今年度は、中学校理科で実施され、結果は、IRT スコア*で示されます。

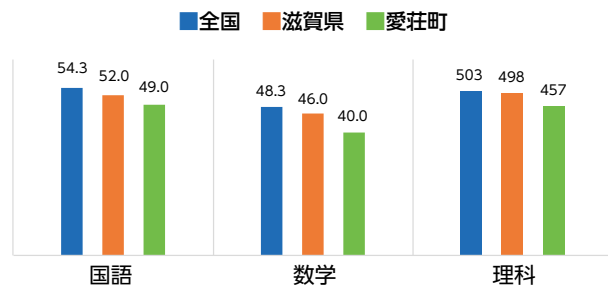
小学校

教科ごとの平均正答率



中学校

教科ごとの平均正答率



* IRT スコア

IRT *に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で示すもの。

* IRT (Item Response Theory : 項目反応理論)

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論

国語

●必要な情報を見つけて書き方を工夫する力は身につけていますが、資料や図表を関連付けて情報を整理する力に課題があります。

●内容の整理と意図の明確化はできていますが、読み手を意識した文章構成には課題があります。

算数 数学

●表や計算の理解はできていますが、考察を深めて数や言葉で表現する力には課題があります。

●計算や知識の理解は良好ですが、数学的に考察し説明する力には課題があります。

理科

●「生命」に関する知識・技能は定着していますが、条件を工夫して問題を解決・表現する力には課題があります。

●生命の働きに関する知識は定着していますが、疑問をもとに問いを立てて表現する力には課題があります。

小学校国語科では、記述式問題の正答率が全国平均を上回り、子どもたちの表現力が着実に育っています。無解答率も大きく下回り、最後まで取り組む姿勢が定着してきました。

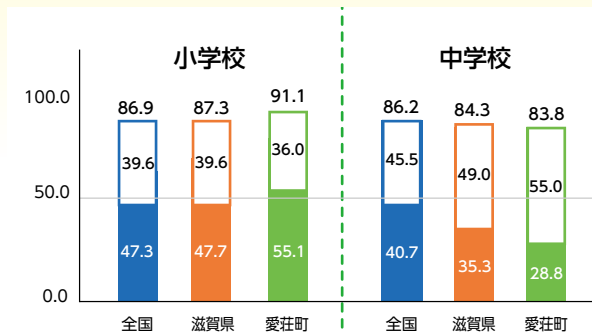
- 今後も、「振り返り」などの活動を通して、書く力をさらに高めていきます。
- ICTを効果的に活用し、一人ひとりに合った学びや自分のペースで深められる学びを充実させます。
- さらに、基礎・基本の定着や基礎的読解力(文章に書かれた内容を正確に理解し、解釈する力)の育成に力を入れていきます。

児童生徒質問紙より

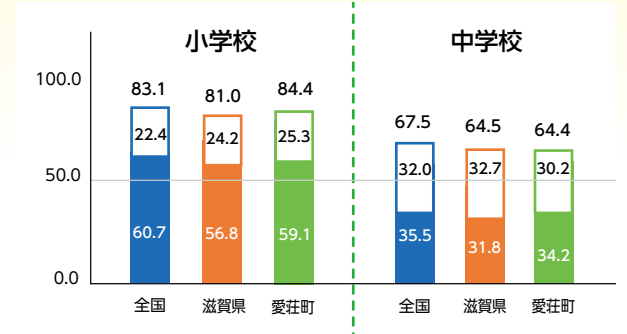
これからも、子どもたちが安心して過ごし、1人ひとりが自らの力を発揮できる学校づくりに努めます。

■1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる

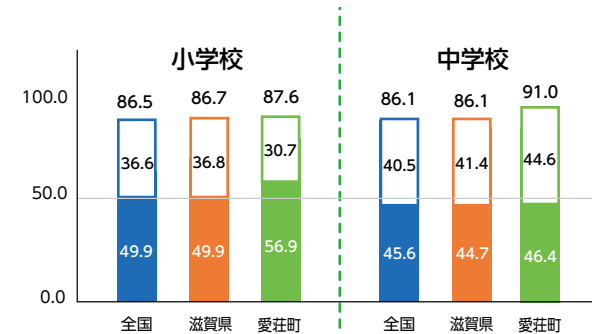
①自分にはよいところがあると思いますか



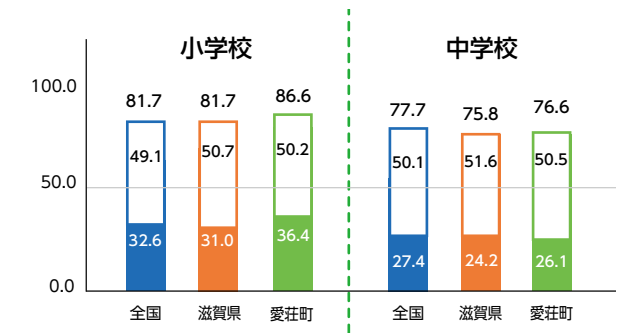
②将来の夢や目標をもっていますか



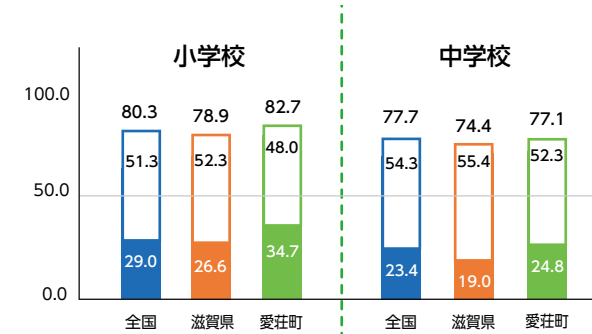
③学校に行くのは楽しいと思いますか



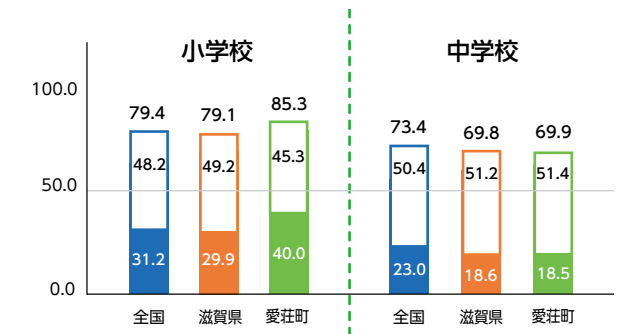
④分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



⑤課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



⑥学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができそうですか



自尊感情*を育む取組を継続して行います

★自尊感情が育つとどうなる？

自分のことを「大切な存在」と思える気持ちがあると、

- ・失敗をおそれずにチャレンジする意欲が高まります。
- ・人間関係が円滑になります。
- ・学力向上にもつながります。

これからも、学校・園・家庭・地域において、一人ひとりを「認める、励ます」自尊感情育成の取組の充実を図っていきます。

*自尊感情

長所も短所も含め、自分自身がかけがえない価値ある存在だと感じ、ありのままの自分を肯定的に受け入れる感覚です。